

2024年10月30日開催 建物のCO2を見える化する「One Click LCA」ウェビナー Q&A

ご質問	回答
① 簡易算定機能と詳細算定機能それぞれに、トイレやキッチン、浴室の係数も導入されているのでしょうか？	詳細算定機能では、トイレやキッチン、浴室などの設備に関する詳細な原単位も多数導入されており、重量等の資材数量と掛け合わせることで精緻な計算ができます。簡易算定機能では、資材別の原単位ではなく、標準な設備資材を想定した延床面積当たりの複合原単位で計算を行うことができます。
② 環境負荷データの汎用データにはどのようなデータベースが実装されているのでしょうか？例えば IDEAなどでしょうか？	環境負荷の汎用データとして、欧州で代表的なecoinventやGabiなどのデータベースがソフトウェアに標準実装されており、日本向けの電力係数で地域補正を行い、ユーザーへ提供しています。IDEA原単位などは、現在標準搭載されていませんが、ユーザー様がプライベートデータとして、ソフトウェアに個別登録いただくことでご利用が可能です。
③ 建設時の設備資材（配管、ダクト、配線等）への対応もされているのでしょうか？もしくは今後予定されていますでしょうか？	ソフトウェアには建築資材だけでなく、配管、ダクト、配線等の設備資材も既に多数標準搭載されており、それらの原単位を用いたLCA算定が可能です。今後更に拡充し整備をしていく予定です。
④ J-CATとの違いはあるのでしょうか？	LCAの基本的な考え方は同じですが、国際規格への準拠、データベースの種類やそれに伴う算定の方法に違いがあります。データベースの種類としては、J-CATは産業連関ベースで、OneClickLCAは積み上げ型ベースの原単位を使用しています。算定方法としては、輸送、施工、端材の算定方法、一式の係数処理による算定などが異なります。
⑤ CFTとは何でしょうか？	CFTは、コンクリート充填鋼管造（Concrete Filled steel Tube）の略称で、鋼管の中にコンクリートを充填した構造です。耐震性に優れ、主に超高層建築物などで採用される構造です。
⑥ オペレーショナルカーボンの算定は可能でしょうか？入力に必要な情報は何でしょうか？	OneClickLCAはエンボディドカーボンを算定するソフトウェアですが、年当たりの消費エネルギーを入力することで、オペレーショナルカーボンも算定する事が可能です。消費エネルギーの計算は、Webプログラムなどの係数を利用して計算することができます。
⑦ LCA自体は国内ではどの客層から、どれほど需要がありますか。現在はあくまで普及段階で、国内での需要はあまりないのでしょうか？	ウェビナー中に紹介させていただいた、国土交通省、東京都などの官公庁における算定義務化の動きに加えて、民間企業においても既に自主的なCO2算定、削減に関する要望が多数出てきており、今後ますますエンボディドカーボン算定の要求が高まっていくと考えています。
⑧ One Click LCAのHPをみますとCIBSE TM65のデータなどを利用した「MEP Carbon Tool」が紹介されているのですが、これはOne Click LCA内のサービスなのでしょうか。または別オプションなのでしょうか？	「MEP Carbon Tool」についてはOneClickLCAが提供しているツールとなっており、特に建築設備のエンボディドカーボンを算出することに特化しています。こちらのツールをご利用になる場合は別途オプション費用がかかりますので、詳細についてはぜひ当社までお問合せ下さい。
⑨ JCATよりも優れている点、劣っている点を教えてくださいませんか？	OneClickLCAの強みは、ISOに準拠し、数多くの主要なグリーンビルディング認証に適合している点、15万点以上の幅広く信頼性の高い原単位を活用出来る点、BIMと連携出来る点などがあり、また世界170カ国以上で使用されている実績が大きな長所です。一方、J-CATは無償算定ツールであり、係数処理により簡易に算定できる点（主要工事以外、工事分倍率）や、エネルギー原単位の将来改善に対応している点などが優れていると考えます。
⑩ 簡易計算コンクリート280kgCO2/m3はかなり低目ですが詳細検討に移行した時に高強度例では400kgCo2以上になることもあると違いされ、簡易計算結果と結果が大きく異なってしまう可能性があります このような違いはLCA作業上大きな支障になりかねませんが デフォルト原単位をどのような考えで設定されているのでしょうか 鉄筋、鉄骨についても同様、設定しだいで大きくことなるかと思えます。	ご指摘の通り、簡易算定と詳細算定では算定条件の違いにより結果に差が大きく出てしまうケースがあります。簡易算定はあくまでも目安を示すものですので、個別の環境や品質によるCO2排出量の違いを評価したい場合は詳細算定に移行して検討を行う必要があります。簡易算定においては、部位毎の資材数量及び原単位をモデル建物（ユーザー様提供）の資材をもとに設定しています。コンクリートについては、部位毎に平均化した強度設定になっています。